

建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断DI値 大幅悪化～



今期の業況判断DI値は、前回調査比34.5ポイント低下の▲25.9と大幅悪化し、前回調査予想値(▲22.4)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で50.0ポイント低下の▲44.8、売上数量が48.3ポイント低下の▲44.8、利益でも36.3ポイント低下の▲39.7と全項目で悪化となった。

今期は冬期間の閑散期のため、受注数が減少している中で、原材料・燃料費の高騰や人員不足により大幅悪化となつた。

分野別の状況

～業種間格差はあるが業況悪化で推移～

土木工事業は、冬期間のため受注数少ないが、例年並みの売上が確保できた。ほぼ全ての材料費と燃料費の高騰で、利益は減少している。

建築工事業は、冬期間は受注工事少なく、例年と大きな変化は無いが、建材・燃料価格は高騰しているため業況は良くなかった。

電気工事業は、冬期間の受注数がないのに加え、資材高騰分を価格転嫁できないものもあり、利益減少した。

管工事業は、公共工事等受注減少し資材高騰により設備投資等を控える傾向があり、売上・利益減少した。

製造業

回答企業33企業

概況

～業況判断DI値 悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比27.3ポイント低下の▲36.4と悪化し、前回調査予想値(▲12.1)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で18.2ポイント低下の▲15.2、売上数量が21.2ポイント低下の▲24.2、利益でも33.3ポイント低下の▲33.3と全項目で悪化した。

原材料および燃料費の高騰が続いている中で、業種間格差があるが、既に小規模の価格転嫁が図られ、更なる価格転嫁を検討する必要がある。総合的業況は悪化で推移した。

分野別の状況

～総合的業況 悪化で推移～

食料品製造業は、原材料価格高騰により収益を圧迫しており、商品価格改定を行ったが、販売量減少し売上増加には繋がらなかった。更なる原価上昇に対し、追いつかない状況にある。

建築・建設用金属資材製造業は、冬期間の閑散期でもあり受注数減少傾向にあり売上も減少した。

衣料・縫製業は、縫製原材料も高騰しているが、価格転嫁に対応できており、売上は増加した。

鉄鋼加工製造業は、冬期間の閑散期でもあり受注数減少傾向にあり、原材料が依然として高値で推移していることから、業況悪化で推移した。

来期の見通し



～業況判断DI値 全項目で改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比29.4ポイント上昇の3.5と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で53.4ポイント上昇の8.6、売上数量が53.4ポイント上昇の8.6、利益でも38.0ポイント上昇の▲1.7と全項目で改善の見込となつた。

冬期間に準備していた受注分が雪解けとともに動き出すことで、業況は改善で推移する見通しである。

業況判断DI値の推移

